

Scope1, 2, 3 排出量（2024年度）※1

カテゴリ	排出量(t-CO2)	計算方法	備考	
Scope1 (事業活動からの直接的な温室効果ガス排出)	—	—		
Scope2 (事業活動でのエネルギー使用による間接的な温室効果ガス排出)	0.64030	—	電気は調整後排出係数を使用。東京支店はビル全体の電気使用量 ・延床面積に対して、弊社分の延床面積で割戻し推計	
Scope1+2 計	0.64030	—		
Scope3 (事業活動範囲外 での間接的な 温室効果ガス排出)	1. 購入した製品・サービス	4.12534	(自社が購入・取得した製品またはサービスの物量・金額データ) × (排出原単位)	
	2. 資本財	—	—	
	3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	0.10409	(自社が購入したエネルギーの物量・金額データ) × (排出原単位)	
	4. 輸送、配送（上流）	—	—	
	5. 事業から出る廃棄物	0.09197	(廃棄物種類・処理方法別の廃棄物処理・リサイクル量) × (廃棄物種類・処理方法別の排出原単位) および $\Sigma \{ (\text{廃棄物処理・リサイクル委託費用(量)}) \times (\text{廃棄物種類毎の標準的なシナリオに基づく排出原単位}) \}$	コワーキングオフィスがまとめて廃棄を行うため、 廃棄物量については弊社1人当たりの排出量を仮定し概算で算出
	6. 出張	3.02012	(移動手段別) $\Sigma \{ (\text{交通費支給額}) \times (\text{排出原単位}) \}$	
	7. 従業員の通勤	1.14408	(移動手段別) $\Sigma \{ (\text{交通費支給額}) \times (\text{排出原単位}) \}$ および (勤務形態・都市階級別) $\Sigma \{ (\text{従業員数}) \times (\text{営業日数}) \times (\text{排出原単位}) \}$	組織変更に伴い組織人数の大幅な変更があったため、 組織変更後の人数にて年間の出社回数を推計し算出
	8. リース資産（上流）	—	—	
	9. 輸送、配送（下流）	—	—	
	10. 販売した製品の加工	—	—	
	11. 販売した製品の使用	—	—	
	12. 販売した製品の廃棄	—	—	
	13. リース資産（下流）	—	—	
	14. フランチャイズ	—	—	
	15. 投資	—	—	
Scope3 計	8.48561	—		
Scope1+2+3 計	9.12591	—		

※1：「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.5）」（環境省/経済産業省）に基づきサプライチェーン全体の温室効果ガスの排出量を算定。